

三宅島

○概況（平成17年9月）

火山活動はやや活発で、多量の火山ガスの放出が続いています。

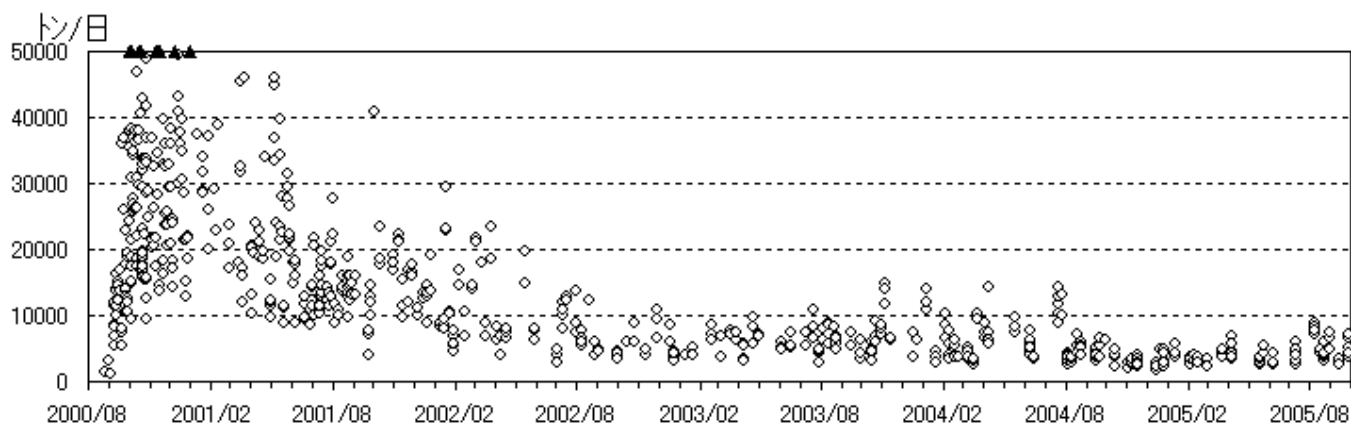
山頂火口では今後も山麓に降灰をもたらす程度の小規模な噴火が発生する可能性があります。二酸化硫黄を含む多量の火山ガスの放出はしばらく継続すると考えられますので、風下にあたる地区では引き続き火山ガスに対する警戒が必要です。また、雨による泥流にも注意が必要です。

表1 三宅島 火山情報発表状況

火山情報名	発表日時	概要
火山観測情報第485号 ～（1日2回発表）	1日 09:30 ↓	最近の火山活動評価、火山活動の状況（噴煙・火山ガス・地震）及び上空の風の予想。第504号、第517号には火山ガス観測結果を含む。
火山観測情報第492号	4日 16:30	
火山観測情報第493号 ～（1日1回発表）	5日 16:30 ↓	
火山観測情報第518号	30日 16:30	

○火山ガス放出の状況

二酸化硫黄放出量は1日あたり2,000～5,000トン程度で、依然として多量の火山ガスの放出が続いています（図1、表2）。



注：▲は50000トン/日以上を表す。

図1 三宅島 山頂火口からの二酸化硫黄放出量（2000年8月26日～2005年9月30日）

二酸化硫黄放出量の観測は陸上、海上及び航空自衛隊、海上保安庁、東京消防庁、警視庁の協力を得て行っています。

表2 三宅島 山頂火口からの二酸化硫黄放出量と火口内最高温度

観測実施日	二酸化硫黄放出量(日量)	火口内最高温度	協力機関
9月15日	2,800トン 3,200トン 3,500トン 2,500トン	—	陸上自衛隊
9月28日	5,100トン 3,800トン 4,300トン 4,300トン 6,700トン 7,100トン	—	海上保安庁

※この資料を作成するにあたり気象庁のデータのほか、独立行政法人防災科学技術研究所のデータも使用しています。

○山頂火口内の状況

15 日、28 日に実施した上空からの観測では、火口内温度および火口内の地形等は雲のため観測できませんでした（図 2）。

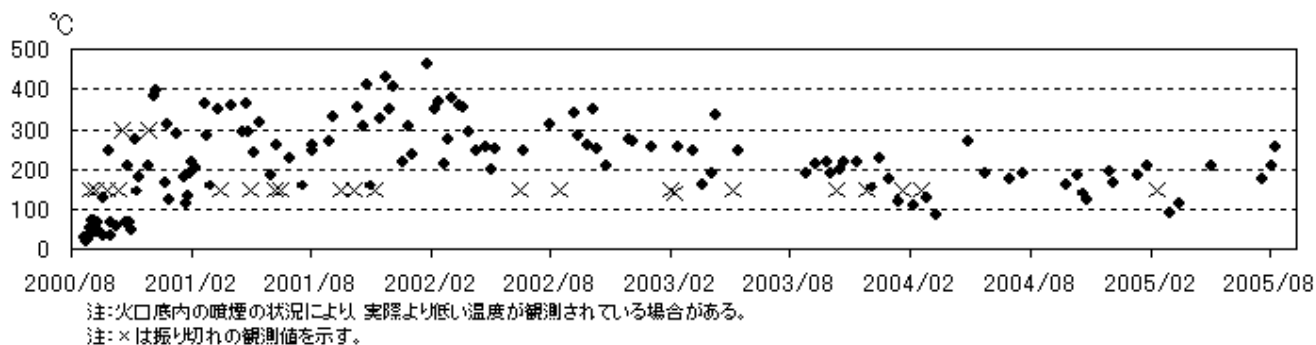


図2 三宅島 山頂火口内の最高温度の推移(2000年8月26日～2005年9月30日)

上空からの観測は陸上、海上及び航空自衛隊、海上保安庁、東京消防庁、警視庁の協力を得て行っています。

○噴煙活動の状況

山頂火口からは白色噴煙が連続的に噴出しており、噴煙活動は依然として活発な状態が続いています。期間中の噴煙高度の最高は火口縁上 1,100m でした（図 3、表 3）。

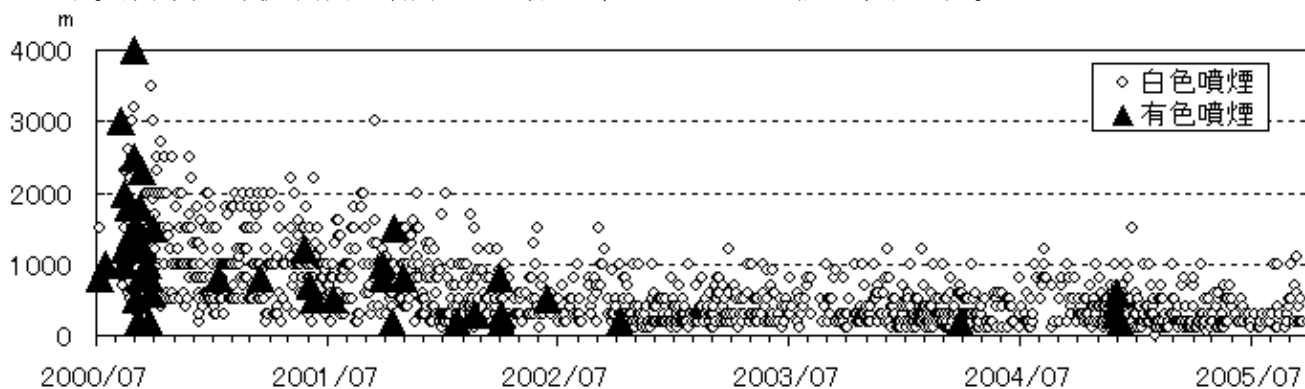


図3 三宅島 日別最高噴煙高度(2000年7月8日～2005年9月30日)

○地震および微動の発生状況

9月3日、9日、11日、14日に火山性地震が一時的に増加し、空振を伴う振幅のやや大きな低周波地震*も発生しました。うち、3日17時53分に発生した低周波地震では、三宅村神着、三宅村坪田で震度1を観測しました。これらの地震増加時に、噴煙の状況等その他の観測データには特に異常な変化はみられませんでした。また、三宅島測候所が行った現地調査では、山麓部で降灰は確認されませんでした。

それ以外の日は地震回数の少ない状態が続き、1日あたり0～12回で経過しました（図4、表3）。

*空振を伴う低周波地震が発生した場合には、山頂火口から火山灰を噴出することがあります。

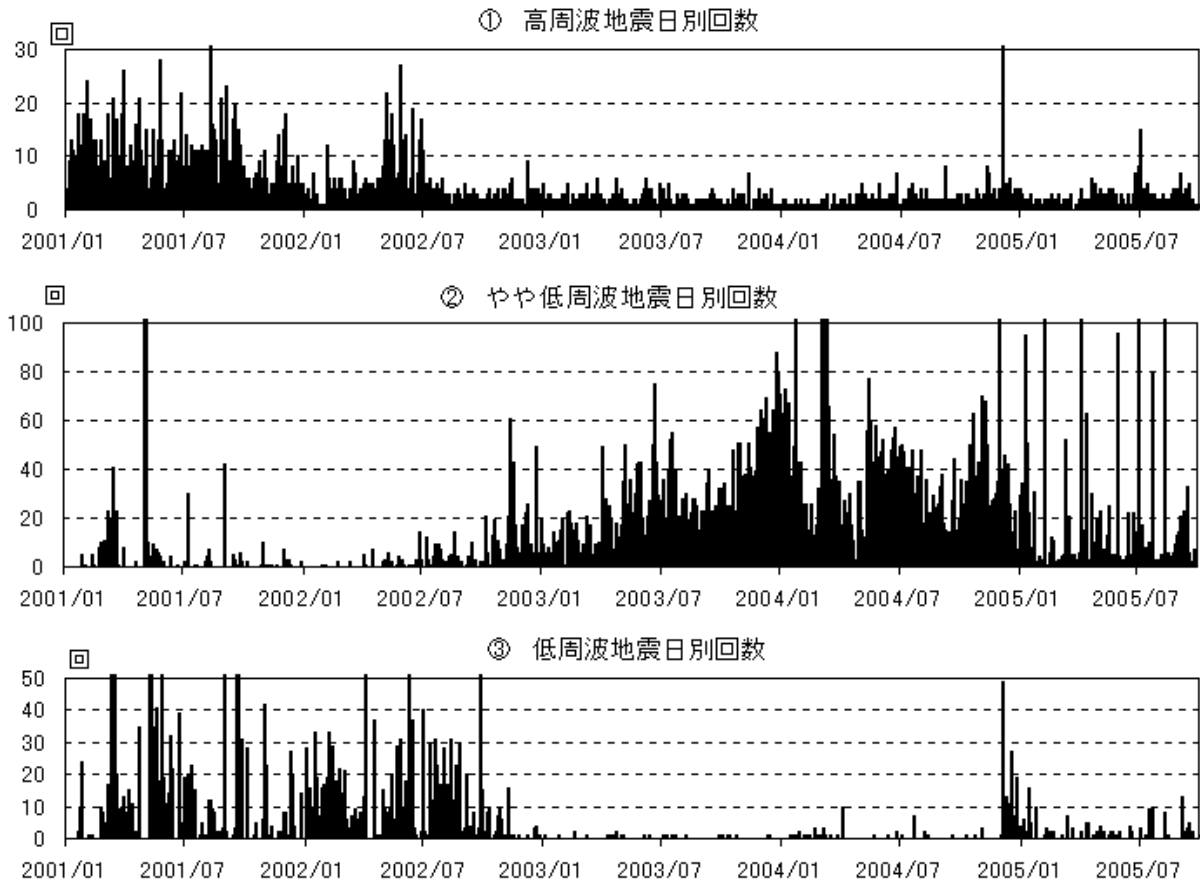


図4 三宅島 日別地震回数（2001年1月1日～2005年9月30日）

※この資料は独立行政法人防災科学技術研究所及び気象庁のデータを元に作成しています。

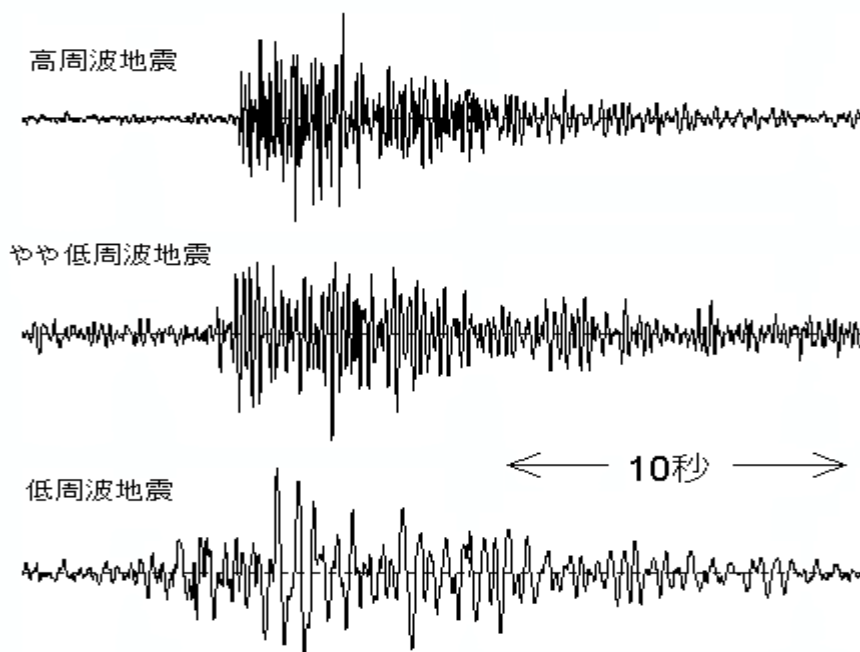


図5 三宅島 地震回数グラフで分類している地震の種類波形例

上：高周波地震：約10Hz以上が卓越する地震

中：やや低周波地震：約3Hz以上が卓越する地震

下：低周波地震：約3Hz以下が卓越する地震

○地殻変動の状況

GPS連続観測によると、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなりながら、現在も継続しています (図 6)。

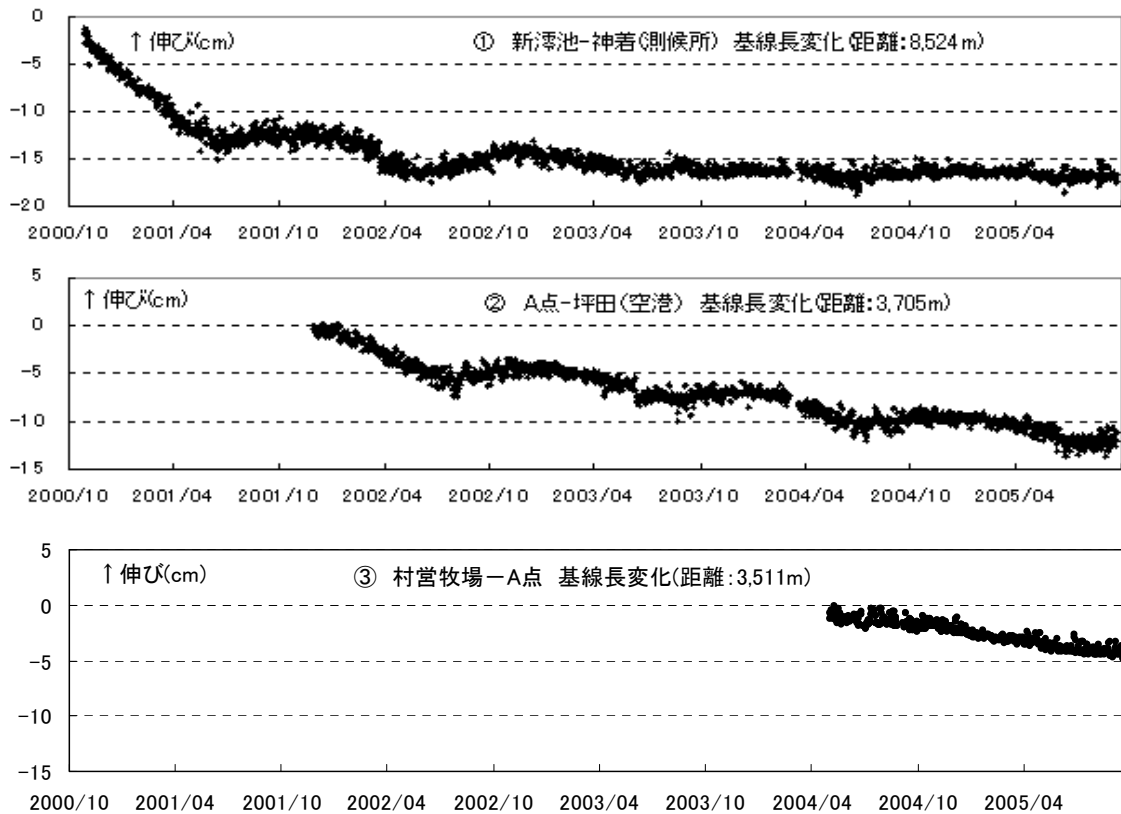


図 6 三宅島 GPS連続観測による基線長変化 (2000年10月1日~2005年9月30日)

○火山体内部の熱的な状態

地磁気全磁力観測では、火山体内部の熱的な状態に特に大きな変化はみられませんでした (図 7)。

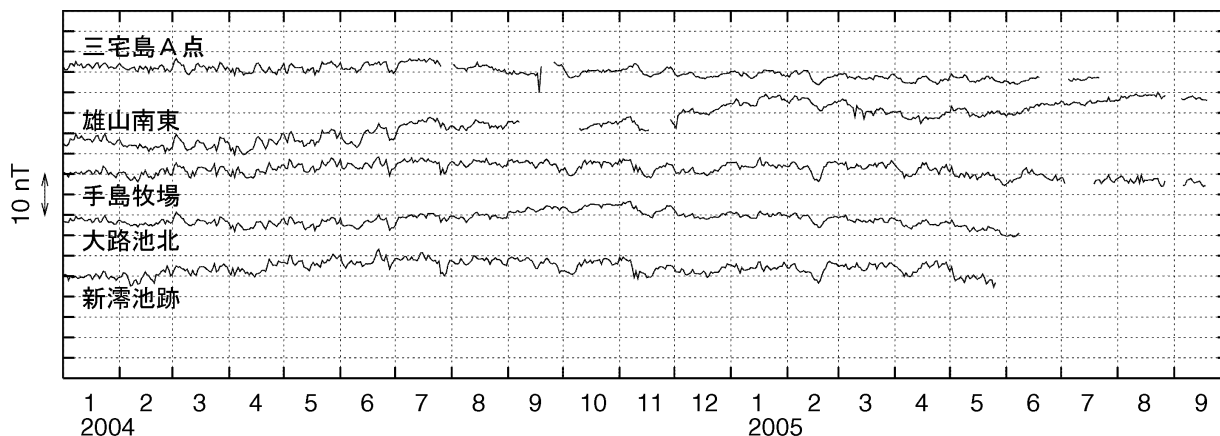


図 7 三宅島 全磁力連続観測 (2004年1月1日~2005年9月30日)

火口の北側観測点 (三宅島A点) で全磁力値に増加傾向 (図中、上向き)、南側観測点 (三宅島A点を除く観測点) で減少傾向 (図中、下向き) がみられた場合、火口直下での温度上昇があると考えられます。

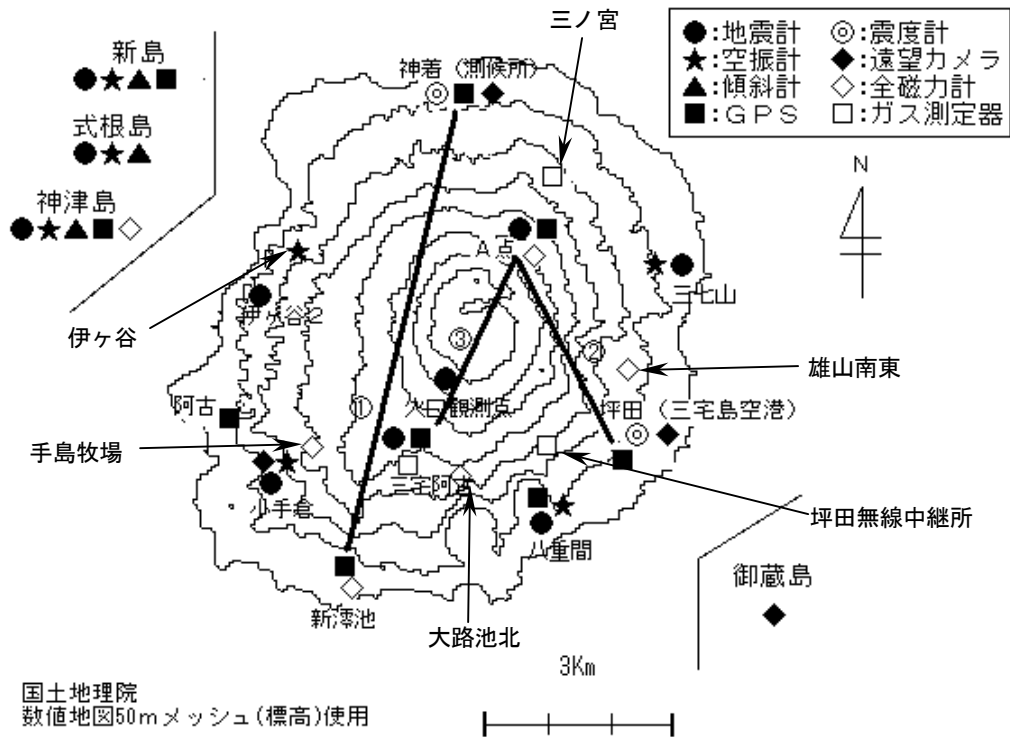


図8 三宅島 気象庁の観測点配置図

表3 三宅島 2005 年9月の火山活動状況

2005年 9月	噴火 回数	火山性地震回数			微動 回数	噴煙の状況		備 考
		高周波 地震	やや低周 波地震	低周波地震 (空振あり)		日最高 (m)	噴煙量	
1日	0	7	6	0	0	500	2	
2日	0	2	10	0	0	500	2	
3日	0	3	21	13(9)	0	×	×	17時53分 震度1:三宅村神着、三宅村坪田
4日	0	0	4	0	0	1000	4	
5日	0	2	10	2(1)	0	×	×	
6日	0	2	2	0	0	×	×	
7日	0	0	3	0	0	×	×	
8日	0	2	3	0	0	200	2	
9日	0	4	23	2(2)	0	700	2	
10日	0	1	3	0	0	×	×	
11日	0	2	14	3(3)	0	1100	4	
12日	0	3	0	0	0	600	3	
13日	0	0	2	0	0	×	×	
14日	0	5	33	5(1)	0	×	×	
15日	0	0	0	0	0	500	3	S02放出量 2500~3500トン/日
16日	0	1	0	0	0	200	1	
17日	0	0	0	0	0	200	2	
18日	0	1	6	1	0	×	×	
19日	0	1	1	0	0	500	2	
20日	0	1	0	0	0	×	×	
21日	0	2	2	2(1)	0	×	×	
22日	0	0	2	0	0	200	1	
23日	0	0	2	0	0	×	×	
24日	0	0	0	0	0	×	×	
25日	0	1	7	0	0	×	×	
26日	0	0	0	0	0	×	×	
27日	0	0	1	0	0	×	×	
28日	0	1	0	0	0	×	×	S02放出量 3800~7100トン/日
29日	0	0	2	0	0	×	×	
30日	0	1	0	1	0	200	1	
合計	0	42	157	29(17)	0	1100	4	最大値

1) BL型地震回数欄にある括弧内の数値は空振を伴った低周波地震の回数を示しています。

2) 噴煙の高さ及び噴煙量は定時観測（09時・12時・15時）の日最大値です。噴煙量は1～7の7階級で観測しています。

（詳細は <http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/kaisetsu/funenryo/funenryo.htm> 参照）

1：極めて少量 2：少量 3：中量 4：やや多量 5：多量 6：極めて多量

7：噴煙量6以上の大噴火で、噴煙が山体を覆う位に多く噴煙の高さは成層圏までに達したと思われるもの

0：噴煙なし ×：不明